

本邦産ハムシ科覺書 (第 5)

Crioceris merdigera (LINNAEUS) に就いて

湯 淺 啓 温

NOTES ON THE CHRYSOMELIDAE IN NIPPON (V).
ON *CRIOCERIS MERDIGERA* (LINNAEUS).

By HIROHARU YUASA

Crioceris merdigera (LINNAEUS) は、一時分類學上の考へ違ひから我國にも産するが如く記されたことのあるのを除けば、我が版圖内には分布してゐないと考へてゐるものが多いかと思はれるが、實は、かなり前から本邦内地に確實に本種の産することが知られてゐることを述べ、更にその新産地を記録し、又 *Crioceris nigritarsis* DOI なるものは本種の異名に過ぎないことを記しておかうと思ふ。

本稿を草するに當り、資料其他に就いて援助を與へられた元樺太廳中央試験所技師故堀松次氏、元朝鮮總督府農事試験場技手村松茂氏、農林省農務局特殊農産課三橋達郎氏、廣島文理科大学動物學教室岩本新一氏の方々に厚くお禮を申上げる。

* * *

CLAVAREAU¹⁾ が、*Crioceris orientalis* JACOBY (カタボシクビナガハムシ) を *C. merdigera* の異名としたために、一時後者が本邦にも産するかの如く見えたけれども、この CLAVAREAU の見解の當を得てゐないことは土井久作氏²⁾ が既に指摘した通りで、之によつて *C. merdigera* は一應本邦ハムシ相から除かれたのであつた。

しかし、眞正の *C. merdigera* は、實は、本邦内地に産し、百合を食害してゐ

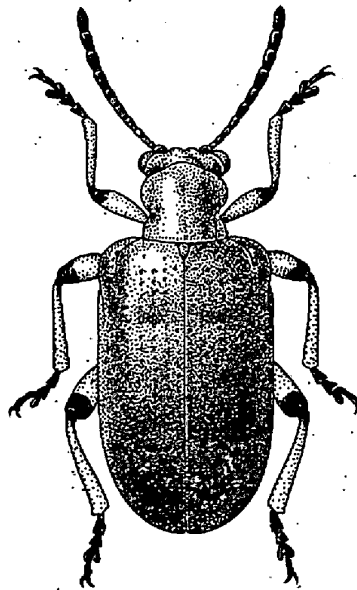
- 1) CLAVAREAU, H. 1913. Coleopterorum Catalogus (JUNK-SCHENKLING), Pars 51, Chrysomelidae: 1. Sagraeinae, 2. Donaciinae, 3. Orsodacninae, 4. Criocerinae.
- 2) 土井久作. 1926. 日本産アカハムシ屬 *Crioceris* に就いて. 昆蟲世界, XXX: 182—187, 218—223.

るのであつて、このことは横濱税關植物検査課長狩谷精之氏³⁾が初めて記録され、同氏は百合莖葉蟲の名を附けてその生態に關する簡単な記述も既に發表されてゐる⁴⁾にも拘はらず、之等の出版物が特殊なもののために未だ分類學者から見落されてゐるやうなのは遺憾である。

狩谷氏に據れば、³⁾同氏が本種を初めて發見したのは昭和5年佐賀縣松浦郡志佐村に於てで、同村では黒軸鐵砲百合の莖葉を食害し、なほ同村のほか同郡湊村・呼子町・同加部島等にも産するといふ。私も同6年佐賀縣立農事試験場から送附の佐志村産1標本(15. VI. 1931採集)を検してこの種と同定したのであつた。更に、私は、當時農林省農務局農産課員たりし三橋達郎氏が昭和12年6月10日福岡縣糸島郡可也村に於て採集された標本を同氏の好意によつて頂くことを得た。而して、同氏の談に據れば、本種は長崎縣にも發生加害してゐるといふから、少くも、九州北部の福岡・佐賀・長崎3縣には産することが判る。

其後、私は村松茂及び堀松次兩氏の好意によつて朝鮮(Sharei, 9. VII. 1923, Y. HASEGAWA et T. KANBE)及び樺太(Horo, 12. VI. 1934)産の各1標本をも檢することが出来たが、之等の地方からは本種は從來記録されてゐなかつたものである。

以上で、本種の本邦内分布地は朝鮮・樺太・九州(福岡・佐賀・長崎)となり、現在の知見の範囲内ではその分布状態は非常に特殊なものであるといはざるを得ない。果して北九州に於ける本種が自然的分布であるか、近年に於ける入殖によるものであるかは今後該産地に於ける生態觀察と共に本邦他地方に於ける分布調査の結果を俟たなければ何ともいふことができない。なほ、本邦以外では、CLAVAREAU¹⁾に據れば、ヨーロッパ・アジアのほか、メキシコ・ブラジルにも産するといふ。而して、ヨーロッパ



Crioceris merdigera L.

- 3) 狩谷精之. 1932. 百合莖葉蟲=關スル調査. 昭和五年度輸移入植物病菌害蟲調査研究事業概要(農事改良資料, 第40號): 1.
4) ————. 1933. 百合莖葉蟲=關スル調査. 昭和六年度輸移入植物病菌害蟲調査研究事業概要(農事改良資料, 第55號): 2.

ではユリ科の *Convallaria* (スズラン), *Smilacina* (ユキザサ), *Lilium* (ユリ), *Allium Cepa* (タマネギ) を食し、高山では *Lilium martagon* を加害するといふ。

ところで、朝鮮及び樺太に本種の分布してゐることを確認したので思出したのは、該地方に本種によく似た *C. nigritarsis* Doi (カラフトクビナガハムシ・カラフトアカハムシ) といふ種の産することである。

この *C. nigritarsis* は土井久作氏⁵⁾ が樺太榮濱産の1♂ (20. VIII. 1914, 一色・足立兩氏) によつて記載したもので、最近には岩本新一氏⁶⁾ が朝鮮金剛山 (28. VII. 1936) で1頭採集してゐるが、土井氏の原記載を仔細に點檢して見ても、*C. meridigena* の記載と異なるところは全く見出されず、それは後者を再記載したに過ぎないといふのほかはない。然るに、土井氏は、どうしたのか、*nigritarsis* を *meridigena* と比較することはせず、*C. subpolita* Motschulsky (アカツヤクビナガハムシ) に比して居り、中條道夫氏⁸⁾ も、近年其の *Criocerinae* (クビナガハムシ亞科) の再檢討に於て、此の標本を所持してゐないためか、土井氏のものを其儘踏襲してゐるに過ぎない。

中條氏は、其の *Crioceris* 屬の種の檢索表⁹⁾ に據ると、*nigritarsis* は “Head black,” “Abdomen entirely black” としてゐるやうであるけれども、土井氏の原記載⁵⁾ には頭部黄褐色、體の裏面は黒色であるが末端の3節は黄色を呈するとしてゐるのである。更に、岩本氏⁷⁾ は「樺太産のものは “Head black, some times vertex and occiput red or reddish brown” であつて朝鮮産のものは後者の場合で私の標本も vertex and occiput は reddish brown である。」と述べてゐる。この “Head black,.....” は何に據つたものか判らなかつたので、岩本氏に問合せたところ、同氏から、之は中條氏の私信に據つたものだとの返事⁹⁾ を貰つた。原記載と異なるところがあるので問題にしたけれども、實は頭部の色彩は變異に富んでゐるものの如く、私の見た標本中にも樺太産の1頭のみは頭の前

- 5) 土井久作. 1928. 本邦産數種の未記録種並びに新種の甲蟲. 動物學雜誌, XL: 371—376, 3圖.
- 6) 岩本新一. 1937. 朝鮮にカラフトアカハムシ *Crioceris nigrotarsis* Doi を産す. 昆蟲研究, I: 19.
- 7) ————. 廣島附近の金花蟲數種. 廣島昆蟲同好會會誌, VI (1): 25—31, 3圖.
- 8) Снуро, Michio. 1933. Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (III). シルビア, IV: 19—56, 1 fig.
- 9) 昭和13年2月8日附.

方部が暗色乃至黒色を呈してゐる。

ヨーロッパでの記載を見ると、一般に *C. meridigera* は、頭部ばかりでなく、觸角・脚・腹部等の色彩も變化多く、其等の變異によつて數種の異常型も記載されてゐるほどである。小楯板の如きも、ヨーロッパの記載でも其の色彩に就いて何等言及してゐないが、私の見た限りの標本では前背板及び趨鞘よりも幾分濃色乃至暗色であり、¹⁰⁾ 土井氏の *nigritarsis* 原記載⁵⁾ では「黒色を呈し、其の中央は赤色光澤を有する」として、相當變化のあることを示してゐる。

何れにせよ、上の記述によつて、本種の體の諸部の色彩はかなり變異するものであることを知つておく必要がある。

* * *

本種の和名としては百合糞葉蟲・カラフトアカハムシ・カラフトクビナガハムシ等があつて、先取權からいへば後二者の何れかを用ゐるのが妥當であらうけれども、樺太のみに産するものでないことが判つた今日に於ては、*meridigera* の學名と共に使用された百合糞葉蟲を改めてユリクビナガハムシとしたら如何だらう？

* * *

最後に學名異名表を掲げておかう。

Crioceris meridigera LINNAEUS, *Syst. Nat., ed. 19, 1758, p. 365 (*Chrysomela*).

—REITTER, Wien. Ent. Zeit., XII, 1893, p. 302.—EVERTS, Col. Neerl., II,

1903, p. 408.—REITTER, Faun. Germ., IV, 1912, p. 80, t. 142, f. 3 (*Lilioceris*).

—CLAVAREAU, Col. Cat. (JUNK-SCHENKLING), LI, 1913, p. 48.—KUHNT, Ill.

Best.-Tab. Käf. Deuts., 1913, p. 818.—SCHAUFUSS in CALWER'S Käferb., ed.

6, II, 1916, p. 905.—KARIYA, Syw. 5 n. Yuisyutu Syokubutu. Byôkin

Gaityû Tyôsa-kenkyû-zigyô Gaiyô, 1932, p. 1.

convallariae HARRER, *Beshr. Ins. Schâff., 1791, p. 142.

brunnea FABRICIUS, *Ent. Syst., I, 2, 1792, p. 6.—LACODAIRE, Mon. Phyt., I,

1845, p. 576.

nigritarsis DOI, Dob. Zasshi, XL, 1928, p. 372, f. 1.—CHÛJÔ, Sylvia, IV, 1, 1933,

p. 44, 50.—IWAMOTO, Stud. Ins., I, 1937, p. 19; Hiroshima-Kontyûgakkwai-

Si, IV, 1937, p. 25, f. 1. (syn. n.)

10) 岩本氏も同氏の獲た朝鮮産 *nigritarsis* のそれを暗褐色としてゐる。

11) *印を附けたもの以外は、私の直接見た文獻だけを掲げる。